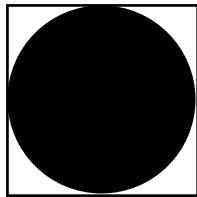


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 162

2021. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 佐藤仁美・北川智久

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

学びの再考としてのGIGAスクール

公益社団法人 日本美術教育連合理事長 大坪圭輔

GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想に向けた学校環境の整備が、一気に進んでいます。そして、内閣府は近未来社会を「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会」(Society5.0)と定義しています。これが正しいかどうかは別としても、すでにわれわれの生活の中にICTは浸透し、AIによる個別最適な教育の構想が現実化されようとしている現実は否定できません。公教育が社会の信託によって、未来を生きる子どもたちの成長を保障するものであるならば、社会の要請に応える責務もあります。しかし、昨年からのコロナ禍によるGIGAスクール構想の前倒実施が、学校に混乱を生じさせていることも事実です。また、この動きに対応するデジタル教科書の議論では、すべての教育活動のデジタル化というところから議論が始まっているとの批判もあります。

コロナ禍においても子どもたちの学びを止めてはならない。そのために、今できる教育活動を最大限の努力で実践するための学校のICT化と、これからの未来社会に対応するために、変革すべき教育のツールとしてのICT化は、全く次元が違うことを整理して考えることが必要です。

GIGAスクール構想には、多くのオンラインによる遠隔授業のプランも含まれています。一方、コロナ禍で各学校が取り組んだ昨年来のオンライン授業では、学校に行かなくてもよい利便性と共に、学びの質における限界論も多く聞かれます。今、我々が直面している課題は、GIGAスクール構想のための授業コンテンツの開発やICTについての習熟度を高めることではないと考えます。まず、必要なのは学びの再考です。子どもたちが学校に登校し、同じ時間と空間を共有し、学び合うリアルな学校での学びとは何かを問い直すことです。感染のリスクを背負いながらも、登校する意味はどこにあるのかを明確にした上での、GIGAスクール構想ではないでしょうか。

■第55回 日本美術教育研究発表会2021 案内■

□日 時：令和3（2021）年10月17日（日）9：00－17：00（予定）

□場 所：Zoomオンライン

参加のためのアクセスコード等は、発表者・参加者へ別途配信します。

□主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）

□後 援：文化庁（申請中）

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください。

■第11回定時総会（オンライン形式による）結果報告■

理事長 大 坪 圭 輔

新型コロナウイルス感染予防に対応し、オンラインで実施いたしました第11回定時総会は、会員の皆様のご協力により、5月16日に無事に終了することができました。心より御礼申し上げます。下記に総会記事録を公開いたしますので、ご確認をお願いいたします。尚、総会議案書は連合HPにて開示しております。

公益社団法人 日本美術教育連合 第11回定時総会議事録

（Zoomシステムによるオンライン形式）

1 総会開催の決定

令和3（2021）年3月6日開催、第6期令和2年度第8回理事会

2 総会議案及び開催方法の決定

令和3（2021）年4月10日開催、第6期令和3年度第1回理事会

3 総会開催通知及び議案の公開、郵送による総会開催の告知

令和3（2021）年4月12日発行日本美術教育連合ニュース161号に総会開催通知を掲載するとともに、令和3（2021）年4月13日にホームページにて議案を公開し、Zoomシステムによるオンライン形式による総会とすることを告知した。

4 議決の方法

令和3（2021）年4月10日開催、第6期令和3年度第1回理事会承認

Zoomシステムでの発声及び画面の目視によって決する。

5 開催日時

令和3（2021）年5月16日（日） 13：00－13：50

6 開会の言葉

北澤俊之事務局長より開会の宣言があった。

7 代表理事挨拶

大坪圭輔代表理事より、第6期の上半期にあたる令和2年度の評価を基に、第6期下半期の方針を確認すべく、総会での議論をお願いするとの挨拶があった。

8 総会成立宣言

北澤俊之事務局長より会員数230名に対して、委任状による出席70名、Zoomシステムによる参加者確認による出席者47名、計117名の出席となり、定款第18条により、総会が成立した旨説明があり、確認された。

9 議長選出

定款第16条に基づき、畑山未央氏が議長に指名された。

10 議事録署名者指名

代表理事、議長、監事、藤井康子会員が指名された。

11 審議事項

第1号議案 令和2（2020）年度事業報告の件

①第6期活動方針上半期報告 大坪圭輔代表理事より、議案書を基に第6期上半期にあたる

令和2(2020)年度の活動状況について活動方針に照らして報告がなされた。

- ②理事会等事業運営報告 同代表理事より、議案書を基に、令和2(2020)年度の理事会等事業運営について報告がなされた。
 - ③公益目的事業1 研究促進事業報告 結城孝雄研究局担当理事より、議案書を基に令和2(2020)年度の教育研究発表会を中心とする研究局の活動について報告がなされた。
 - ④公益目的事業2 国際事業報告 西村德行国際局担当理事より、議案書を基に令和2(2020)年度の国際会議を中心とする研究局の活動について報告がなされた。
 - ⑤公益目的事業3 啓発・普及事業報告 三澤一実事業局担当理事代行より、議案書を基に令和2(2020)年度の造形美術教育力養成講座を中心とする事業局の活動について報告がなされた。
 - ⑥美術教育連携交流担当報告 山口喜雄美術教育連携交流担当理事より、議案書を基に令和2(2020)年度の講演会、造形美術教育フォーラム等について報告がなされた。
- 以上について議長は、Zoomシステムによる出席者に諮り、審議の結果、令和2(2020)年度事業報告は原案通り承認された。

第2号議案 令和2(2020)年度決算及び監査報告の件

- ①貸借対照表 西村德行財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表について報告がなされた。
- ②正味財産増減計算書 同財務担当理事より、議案書を基に正味財産増減計算書について報告がなされた。
- ③財務諸表に対する注記 同財務担当理事より、議案書を基に財務諸表に対する注記について報告がなされた。
- ④附属証明書 同財務担当理事より、議案書を基に附属証明書について報告がなされた。
- ⑤財産目録 同財務担当理事より、議案書を基に財産目録について報告がなされた。
- ⑥貸借対照表内訳表 同財務担当理事より、議案書を基に貸借対照表内訳表について報告がなされた。
- ⑦監査報告 宮坂元裕監事より、議案書を基に監査報告がなされた。

以上について議長は、Zoomシステムによる出席者に諮り、審議の結果、令和2(2020)年度決算及び監査報告は原案通り承認された。

報告事項1 令和3(2021)年度事業計画の件

- ①令和3(2021)年度理事会等事業運営計画 大坪圭輔代表理事より、議案書を基に令和3(2021)年度理事会等事業運営計画について説明があった。以上の報告に対して、質疑は特になかった。

報告事項2 令和3(2021)年度収支予算について

- ①令和3(2021)年度予算書 西村德行財務担当理事より、議案書を基に令和3(2021)年度予算書について説明があった。以上の報告に対して、質疑は特になかった。
- その他 議長はZoomシステムによる出席会員に対して、その他の意見等の有無について諮り、吉野榮子会員より、教育研究発表会での成果が出てきているとの認識が示された。

12 議長解任

以上をもって畑山未央議長はすべての議案審議の終了と、議長の解任を宣した。

13 閉会の言葉

北澤俊之事務局長により閉会の宣言があり閉会した。

■ 正味財産増減計算書 ■

令和2（2020）年4月1日から令和3（2021）年3月31日

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	417	779	△ 362
受取入会金			
受取入会金	36,000	66,000	△ 30,000
受取会費			
受取正会員会費	1,351,000	1,486,000	△ 135,000
受取賛助会員会費	70,000	96,000	△ 26,000
事業収益			
論集広告料	140,000	180,000	△ 40,000
論集掲載料	451,500	672,500	△ 221,000
造形美術養成講座	85,096	88,000	△ 2,904
事業収入	62,269	0	62,269
受取補助金			
受取寄付金	10,000	10,000	0
受取利息	2	0	2
雑収益	64,950	137,900	△ 72,950
経常収益計	2,271,234	2,737,179	△ 465,945
(2) 経常費用			
事業費	1,942,831	2,168,190	△ 225,359
講師料	135,000	50,000	85,000
印刷製本費	897,159	1,086,870	△ 189,711
通信運搬費	192,003	280,630	△ 88,627
会議費	35,563	13,035	22,528
旅費交通費	6,732	50,330	△ 43,598
賃借料	302,225	275,100	27,125
消耗品費		22,073	△ 22,073
委託報酬	244,300	389,822	△ 145,522
雑 費	129,849	330	129,519
管理費	440,277	626,548	△ 186,271
会議費	9,542	115,641	△ 106,099
旅費交通費	1,900	188,596	△ 186,696
通信運搬費	86,703	56,423	30,280
賃借料	129,525	117,900	11,625
消耗品費	22,031	48,280	△ 26,249
印刷製本費	73,476	7,800	65,676
委託報酬	104,700	75,120	29,580
雑 費	12,400	16,788	△ 4,388
経常費用計	2,383,108	2,794,738	△ 411,630
当期経常増減額	△ 111,874	△ 57,559	△ 54,315
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	673,500	673,500	0
過年度造形養成講座		673,500	△ 673,500
経常外収益計		673,500	△ 673,500
(2) 経常外費用			
過年度賃借料		276,710	△ 276,710
過年度講師料		273,000	△ 273,000
過年度賃借料		34,100	△ 34,100
過年度雑給		66,000	△ 66,000
その他諸費		19,310	△ 19,310
他経常外費用		669,120	△ 669,120
経常外費用計		669,120	△ 669,120
当期経常経常外増減額		4,380	△ 4,380
当期一般正味財産増減額	△ 111,874	△ 53,179	△ 58,695
一般正味財産期首残高	3,626,434	3,679,613	△ 53,179
一般正味財産期末残高	3,514,560	3,626,434	△ 111,874
II 正味財産期末残高	3,514,560	3,626,434	△ 111,874

令和2（2020）年度 決算報告書の詳細および監査報告書はホームページに掲載

■収 支 予 算 書■

令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日

公益社団法人日本美術教育連合

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
基本財産受取利息	1,200	1,200	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	注1
受取会費	1,440,000	1,440,000	0	
受取正会員会費	1,290,000	1,290,000	0	注2
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0	
事業収益	850,000	850,000	0	
受取論集広告料	150,000	150,000	0	
受取論集掲載料	550,000	550,000	0	
造形美術養成講座	150,000	150,000	0	注3
受取補助金等	51,000	151,000	△ 100,000	
受取寄付金	50,000	50,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	100,000	△ 100,000	
経常収益計	2,387,200	2,487,200	△ 100,000	
(2) 経常費用				
事業費	1,778,000	1,455,000	323,000	
講師料費	40,000	40,000	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
印刷製本費	995,000	995,000	0	
通信運搬費	145,000	145,000	0	
諸謝金	60,000	60,000	0	
会議費	50,000	210,000	△ 160,000	
賃借料費	273,000	0	273,000	注5
委託報酬	210,000	0	210,000	
管理費	494,000	762,000	△ 268,000	
会議費	165,000	5,000	160,000	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	10,000	5,000	5,000	注4
賃借料費	177,000	400,000	△ 223,000	注5
消耗品費	2,000	2,000	0	
印刷製本費	5,000	5,000	0	
支払負担金	30,000	30,000	0	
委託報酬	90,000	300,000	△ 210,000	
雑費	5,000	5,000	0	
経常費用計	2,272,000	2,217,000	55,000	
当期経常増減額	115,200	270,200	△ 155,000	
当期一般正味財産増減額	115,200	270,200	△ 155,000	
一般正味財産期首残高	3,626,434	3,679,613	△ 53,179	
一般正味財産期末残高	3,741,634	3,949,813	△ 208,179	
II 正味財産期末残高	3,741,634	3,949,813	△ 208,179	

注1 新入会員15名として

注4 改選年のため増額

注2 会員数215名として

注5 契約更新年のため増額

注3 啓発事業部養成講座参加費

令和3(2021)年度 収支予算書の詳細はホームページに掲載

■日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座〈第7期〉」について(案内)■

事業局 三 澤 一 実

「造形・美術教育力養成講座」は平成30(2018)年度から連続講座を開催してきました。そこでは美術及び美術教育を幅広くとらえ、社会における美術教育の理解を広げ、その拡充を図るとともに、子どもと造形表現に関する理解を深めたり、教育としての美術の可能性を考えたりするなど、講義と演習を通して教育実践力等を高める造形・美術教育力養成講座を実施してきました。令和3(2021)年度もその趣旨を踏まえ、「越境し拡張する美術－テクノロジーとコミュニケーション」をテーマに全3回の連続講座を開催します。

今日政府が進めるSociety5.0社会に向けて、加速度的にDX社会(デジタルトランスフォーメーション)が進んでいます。美術教育に関してもデジタル表現や、デジタルを介したコミュニケーションは避けては通れない内容となってきました。講座では幾つかの事例を紹介し、簡単なワークショップを通してこれからの造形美術教育のあり方を考える切っ掛けとしたいと考えます。第一線で活躍されている講師の話と、簡単なワークショップを通して、誰もがわかりやすく楽しい講座を目指します。

開催方法はオンライン開催を念頭に、状況や内容によっては対面とオンライン参加のハイブリッド方式での開催も検討します。オンライン開催による講座は、物理的な条件により今まで参加できなかった人も参加が可能となります。多くの方に参加していただきたいと考えます。

□名 称 日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座」第7期

□テーマ 「越境し拡張する美術－テクノロジーとコミュニケーション」

□期 間 令和3(2021)年9月以降 令和4(2022)年3月末まで。全3回

□内 容 各回の内容(予定)

①子どもと美術 デジタル社会を生きる子ども達と造形ワークショップ

ICTを使った子ども向けワークショップの紹介や具体的な演習を行います。

講師：NPO法人CANVAS

②障害者と美術 障害者と健常者を繋ぐテクノロジー

オリヒメロボットを使った障害者とのコミュニケーション事例の紹介やワークショップを行います。

講師：オリー研究所 鈴木メイザ 氏

③社会と美術 デジタル表現が作り出すアート

元チームラボのエンジニアの話聞きながらデジタルアートとコミュニケーションについて考えます。

講師：武蔵野美術大学デザイン情報学科専任講師 大石 啓明 氏

□参 加 費 有料

□参加方法 オンライン申し込みによる。次号連合ニュースとHPにて参加案内を致します。

□参加人数 各講座30名

□そ の 他 全3回の内2回以上の参加者については、「造形・美術教育力養成講座修了認定書」を授与します。

■第55回 日本美術教育研究発表会 2021■ 【一次案内】

本美術教育連合理事・研究局運営委員長 結 城 孝 雄

本法人は1965年InSEA東京世界大会の精神「国際理解と美術教育の前進」を基に組織され、今年で55回目の研究大会を迎えます。昨年度は、コロナ禍による対面での開催が危ぶまれ、オンラインリアルタイム配信にて実施されました。今年度もコロナ禍の収束が見通せない中での開催になりますので、同様にオンラインリアルタイム配信による開催を予定しています。また、今回海外研究者のみなさんにも発表に参加していただく準備を進めています。国内外に開かれた発表会として、海外の研究動向の情報提供の場としても充実を図っていきたいと考えます。

従来の口頭発表（発表20分＋協議5分）の他に、①モジュール口頭発表（発表30分＋協議25分）3コマも継続実施いたします。本会での発表は、『日本美術教育研究論集55 2022』への投稿資格となります。これまでの研究発表者は日本各地にわたり、各学校教育の教員、美術館学芸員、行政職、院生・学生、海外（韓国・中国・メキシコ）と多彩な内容でした。「美術を通じた人間形成」と教育に熱意ある方々の研究発表とご参加を心よりお待ちしております。

■参 加 要 項■

- 開催日時： 令和3（2021）年10月17日（日） 9：00－17：00（予定）
- 会 場： Zoomオンライン会議上 参加のためのアクセスコード等は、発表者・参加者へ別途配信
- 参加費等： 参加費 500円（概要集代として）事前申込みは、必要で、先着150名、会員以外の方でも参加できます。詳細はHPにて、9月上旬告知
『日本美術教育研究発表会 2021概要集 web版』を配信いたします。
- 主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合
- 後 援： 文化庁（申請中）

研究発表申込 WEB入力期限 令和3（2021）年8月21日（土）23:00

- 発表資格： 共同発表者も含め、会員であること。入会には本会会員1名の推薦が必要です。新規入会希望者は「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に「入会申込書」を本法人HPから印刷し、本事務局長宛てに送信ください。身近に会員がいない場合は、下記の問合先にご相談下さい。入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です。

<http://insea-in-japan.or.jp/about.html>

- 発表時間： 〈通常口頭発表〉20分質疑応答5分、移動・準備15分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分＋質疑応答25分、移動・準備15分〔役員会で協議選定〕

□発表区分： I 群・II 群・III 群の3区分があり研究発表申込。WEBサイトにどれかを明記して下さい。

I 群：理論・実践研究論文（査読あり、投稿時に英文のサマリーが必要です）

II 群：実践研究報告等（査読あり、題目のみ英文標記）

III 群：研究ノート（査読あり、題目のみ英文標記）

□発表方式： プレゼンテーションソフトを用いたオンライン会議による発表。

□発表申込： 申込WEBサイトへの入力 期限厳守：令和3（2021）年8月21日（土）23:00

WEBサイト名「第55回 日本美術教育研究発表会2021 研究発表申込」

<https://kokucheese.com/event/index/613531/>

- | | |
|----------------|--|
| 1) お名前 | 11) 所属／役職 |
| 2) ふりがな | 12) 発表時使用ソフト（Power Point・Keynote・Google Slides他） |
| 3) メールアドレス | 13) （公社）日本美術教育連合の会員資格の有無 |
| 4) メールアドレス(確認) | 14) 発表区分（I 群、II 群、III 群） |
| 5) 郵便番号 | 15) モジュール発表希望（あり、枠に余裕あればあり、なし） |
| 6) 都道府県 | 16) 発表概要文 600字以内の提出 info@insea-in-japan.or.jp |
| 7) 住所 | 17) 勤務先・職名（学生・院生は学校名・学年・専攻名 正式名称） |
| 8) ビル・マンション名 | 18) 発表者全員の所属・氏名（氏名は和英表記 多数も連動表記） |
| 9) TEL | 19) 発表題目／和英表記 <u>発表題目の英文表記ご確認ください。</u> |
| 10) FAX | 20) メッセージ（特になし、記入は300字以内） |

入力が完了しましたら、返信メールが届きます。必ずご確認ください、未完了の場合があります。

□概要文： E-mailの送付先：info@insea-in-japan.or.jp【氏名・所属（正式名称）題目・概要文600字】

E-mailの件名に「●連合発表2021申込「氏名」」とお書き下さい。

E-mailの送信後10日後以内に受付確認の返信がない場合は、念のため再度送信して下さい。

■ 備考・問合せ ■

□発表時程： 9月下旬発行の『連合ニュース163号』に掲載し、会員に送付する予定です。

□問 合 先： 研究局運営委員長 結城孝雄 takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

事務局長 北澤俊之 kitazawa@toyo.jp

公益社団法人日本美術教育連合主催

■ 《公益法人認定10周年記念シンポジウム2021》の記録■

美術教育連携交流担当理事 山口 喜雄



- 演 題 日本美術教育連合の
公益法人化の意義とこれから
- 日 時 令和3（2021）年5月16日（日）
- 場 所 Zoomオンライン

日本美術教育連合は昭和28（1953）年に結成、同42（1967）年社団法人化、東日本大震災の平成23（2011）年3月に公益社団法人として新たな出発を遂げました。その公社化10周年記念の本シンポジウムは、第1部で公社化の意義と経緯、第2部はこれからの10年を展望しました。第1部のシンポジストは、「公益法人認定」に携わった3氏、「これから」を語る第2部の5氏は、研究・事業・国際・事務各局の役員若手を中心に大学・小学校・院生を勧誘し、理事会・運営委員会にて選出しました。シンポジウム終了後、参加者から次の感想が寄せられました。

「登壇者の誰もが熱意をもって語り合い気持ちがいい」「公社化が連合の歴史で大きな意義をもつと改めて認識した」「何より若手女性の周到な準備、データの示し方やまとめ方がよく、今後の強力な推進力になると思った」「とりわけ女性研究者全員が、研究上も実践上も新時代を感じさせる力を発揮、かつ正確な認識と希望に満ちた提言で連合の新しい可能性を明白に示した」等々、発展への期待が示されました。

詳細な報告は令和4（2022）年3月末刊行の『日本美術教育研究論集No.55』に掲載予定。

本報告では、登壇した全13氏の顔写真と（1）所属、（2）連合の役職、（3）発言趣旨30字を掲載します。事前申込と当日参加の計54名の所属所在、校種他は後頁に記載しました。

開会の辞 □長田 謙一 ながた けんいち



- （1）東京都立大学客員教授・千葉大学名誉教授
（2）公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当運営委員
（3）1953結成、64InSEA東京大会、67社団法人、公社化10年の意義・成果・今後

理事長挨拶 □大坪 圭輔 おおつぼ けいすけ



- （1）武蔵野美術大学教授
（2）公益社団法人日本美術教育連合理事長
（3）理事長の挨拶として、美術教育の多重性と連合の役割について

第1部

日本美術教育連合の公益社団法人化の意義

□宮坂 元裕 みやさか もとひろ



- (1) 横浜国立大学名誉教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合監事／前理事長
- (3) 公益社団法人化の前後9年間の報告と法人の目的及び意義の確認

(進行)

□林 耕史 はやし こうし



- (1) 群馬大学共同教育学部教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合研究局運営委員／前理事・事務局長
- (3) 公益法人として本会が進むべき方向や実現させたいビジョンなど

□西村 徳行 にしむら とくゆき



- (1) 東京学芸大学教職大学院准教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合理事／前理事・事務局長
- (3) 造形美術教育に関わる現場を架橋するためのこれから

第2部

日本美術教育連合のこれから

□藤井 康子 ふじい やすこ



- (1) 大分大学教育学部准教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合研究局運営委員
- (3) 本連合の国際展開の推進－海外への発信と国際ネットワークづくり

□手塚 千尋 てつか ちひろ



- (1) 明治学院大学心理学部専任講師
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合事業局運営委員長代行補佐
- (3) 拡張する美術教育に目を向けた事業局の取組と今後をご紹介します

□佐藤 真帆 さとう まほ



- (1) 千葉大学教育学部准教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合国際局員InSEA世界評議員（アジア地区）
- (3) 近年のInSEAの活動の紹介と今後の国際局の活動について

□北川 智久 きたがわ ともひさ



- (1) 筑波大学附属小学校主幹教諭
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合事務局運営委員ニュース担当
- (3) 連合ニュース担当とHP担当として見てきた近年の連合の系譜

(進行) □畑山 未央 はたやま みお



- (1) 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科博士課程
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合事務局運営委員
- (3) 学校・社会・国際・研究のプラットフォーム化に向けた事務局の役割

総括討論 □橋本 光明 はしもと みつあき



- (1) すみだ北斎美術館館長
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当運営委員
- (3) I型の而已(それだけ)からT型へ、而型は夢か。而今(じこん)

閉会の辞 □仲瀬 律久 なかせ のりひさ



- (1) 聖徳大学名誉教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合国際局運営委員
- (3) 発言者、参会者への謝辞。運営に携わって下さった皆様への謝辞

司 会 □山口 喜雄 やまぐち のぶお



- (1) 元宇都宮大学教育学部教授
- (2) 公益社団法人日本美術教育連合美術教育連携交流担当理事
- (3) 授業は教師の美術を通した子たちへの愛情表現、その研究との自覚

参加者54名の内訳				
会 員 36		非会員 7		校種・所属
こくちーずを経ず不明		11		小学校 3
所属所在 (10 都県)				中学校 3
				高校 2
新 潟	1	東 京	19	高 専 1
群 馬	2	神奈川	9	短 大 4
栃 木	1	兵 庫	1	大 学 21
茨 城	1	滋 賀	2	行 政 1
千 葉	6	大 分	1	美 術 館 1
				出 版 社 4
				院 生 3
				不 明 11

□運 営	(役員氏名／敬称略)
企 画	山口喜雄・橋本光明・長田謙一
広 報	理事会・運営委員会構成員
こくちーず	理事会・運営委員会構成員
Zoom 設定	北川智久
フライヤー	結城孝雄
顔写真	山口喜雄
編 集	本人提供
	山口喜雄

事務局より

■事務局便り■

事務局長 北 澤 俊 之

□会員の異動（敬称略）

〈退会者〉葛西祐子・佐多 透

（これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました）

〈入会者〉高橋敏之・大黒洋平・松本浩司・横田咲樹

□定時総会「出欠はがき」返送のお礼

5月16日に開催された、令和3（2021）年度第11回定時総会に関わる出欠はがきの返送にご協力いただきましてありがとうございました。おかげさまで総会議事録にありますように、無事総会を成立させることができました。ここに改めて会員のみなさまのご協力に感謝申し上げます。

□令和3（2021）年度会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

令和3（2021）年度会費 6,000円 を 納入してください。

納入期限 令和3（2021）年8月20日（金）

【郵便振替】

（公社）日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

*同封の振り込み用紙をご利用ください。（恐れ入りますが手数料はご負担ください。）

*過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いですすでに納入済みの方には、失礼をお許しください。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 北澤 俊之

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科

TEL&FAX：03-3945-8568（研究室）

E-mail：kitazawa@toyo.jp